

おぞの

尼崎市立小園小学校
平成30年9月27日
No.7

一 秋到来、子どもの笑顔が輝く季節 一

校長 平家祐孝

熱中症をとっても心配した猛暑の時期が過ぎ去り、過ごしやすい季節となりました。学校では、西門周辺に紅白のヒガンバナが咲き、草むらからはコオロギの鳴き声が聞こえてくるこの頃です。

4日の台風21号では、強風に大きく揺さぶられる高木が校舎の窓ガラスを割るのではないかと心配しました。運動場では、朝礼台が風で動いているのに驚かされました。風が治まり、敷地内外を確認すると、5本ほどの太い桜の枝が折れ、プール前のシュロの木も完全に倒れていました。また、せっかく実が熟し始めたザクロの木が真っ二つに折れてしまったのがとても残念でした。校舎は、屋上に設置されているエアコンの室外機が倒れた以外、大きな被害は確認できず少し安心しました。

停電のため休校となった5日、15時45分ごろ、うす暗く静かな校長室の中で、突然プリンターが動き出したので、びっくりして飛び上がりそうになりましたが、停電が復旧したことを実感した一瞬でもありました。

信号が完全に復旧していない6日、登校時には多くのPTAや地域の方が登校を見守ってくださっていました。10日の大雨警報解除時においても、多くの方が子ども達を見守ってくださったことに深く感謝しています。

今、学校では、体育大会の練習がラストスパートの時期を迎え、応援歌を歌う声が校内に響いています。できるだけ練習をのぞくようにしていますが、今年は雨の日が多く、運動場での練習を見る機会が少ないように感じています。リズムにのり笑顔でダンスする姿には思わず笑みがこぼれます。怪我が心配な6年生の組み体操の練習では、10人以上の先生が指導の応援に駆けつけていることもありました。天気が気になるこの時期ですが、闘争心に満ちた目、楽しそうに踊る姿、演技を終えた後の清々しい表情…一人一人が、そしてみんなが心一つに取り組む姿をとっても楽しみにしています。

■標語『きっと居る 友という名の 救世主』で「市長賞」を受賞！

青少年健全育成・非行化防止標語に小・中・高校、一般から応募された20,398点（応募人数11,676人）の中から、本校6年の奥川優大くんが「市長賞」（最優秀作品）に選ばれました。

8月27日、表彰式が行われ、稲村市長から直接賞状を手交されました。作品は勿論のこと、受賞の際の堂々とした返事・態度もとても立派で、後に続く

受賞者のよき見本となりました。